

平成25年行政事業レビューシート (外務省)								
事業名	アジア欧州財団拠出金 (任意拠出金) (ASEF: ASIA-EUROPE FOUNDATION)		担当部局庁	欧州局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成9年度開始		担当課室	アジア欧州協力室		室長 原 圭一		
会計区分	一般会計		政策・施策名	基本目標Ⅶ：分担金・拠出金 具体的施策Ⅶ-2：国際機関等を通じた経済・社会分野に係る国際貢献に必要な経費				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条三		関係する計画、通知等	ASEM第1回首脳会合議長声明、アジア欧州財団に関する外相宣言、ASEM第6回首脳会合議長声明				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	ASEMの唯一の常設機関であるアジア欧州財団(ASEF)に対して、プロジェクト実施経費の任意資金拠出を行うことにより、アジア・欧州両地域間の相互理解促進のための諸活動を支援するとともに、ASEMプロセスにおける我が国の影響力・発言力を維持する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	ASEFが実施するプロジェクトの経費に充てるための資金拠出を行い、ASEFの活動目的であるアジア・欧州両地域間の相互理解促進のための知的交流、文化交流、人的交流等の拡大に寄与し、かつ、我が国の重要施策及びASEMの優先分野に関連のある事業をイヤマークすることによって、我が国によるASEMプロセスへの具体的な貢献を示す。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求		
	予算の状況	当初予算	4	2	2	2	2	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		繰越し等	-	-	-	-	-	
		計	4	2	2	2	2	
	執行額	4	2	2	-	-		
執行率(%)	100.00%	100.00%	100.00%	-	-			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (25年度)	
	毎年我が国イヤマーク事業を一件実施することにより、アジア欧州間の人的交流を促進し、ASEMプロセスに貢献する。		成果実績	事業	1	1	1	1
			達成度	%	100	100	100	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込	
	ASEMプロセスにおける政策への寄与数		活動実績 (当初見込み)	項目	10 (10)	5 (5)	10 (10)	- (5)
			算出根拠	ASEFのプロジェクト総事業費2,832,570SGD÷参加国等48=59,012				
単位当たりコスト	約59,012SGD/参加国等							
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	事業費	2	2					
	計	2	2					

事業所管部局による点検						
		項目	評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	<ul style="list-style-type: none"> 任意拠出金は、日本がアジアと欧州との繋がり及び相互理解を深める上で、優先度の高い事業の実施のために充てられている。 ASEM参加国は、ASEM首脳会合において、国としての財政的貢献を要請されている。 		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		—	<ul style="list-style-type: none"> ASEFは単位あたりコストの削減に努め、2012年度のプロジェクト経費予算を前年比で26%削減した。 2012年度イヤマーク事業における我が国の負担率は9%。 		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		—			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		—			
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	<ul style="list-style-type: none"> 2012年に開催された首脳会合において、活動の成果に対する評価が議長声明に反映された。 		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○			
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		—			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	ASEFは、ASEMの唯一の常設機関として、ASEMの第3の柱(社会、文化、教育その他)においてアジア・欧州両地域間の相互理解を促進する重要な役割を果たしている。現在、財団運営の更なる効率化に向けた努力を行っており、我が国は、理事会及び関連の下部委員会のポストを占め、財団の運営に関するあらゆる事項に関与できる立場から、ASEFのそのような改革努力に積極的に貢献してきている。					
外部有識者の所見						
—						
行政事業レビュー推進チームの所見						
現状通り	引き続き、予算の効率化や経費の節減の余地がないか確認していく。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
現状通り	—					
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	161	平成23年	157	平成24年	182